

# 研究者も SDGs を理解しよう

Hisao URATA **浦田尚男** (株)三菱ケミカルホールディングス 取締役



## はじめに

最近新聞紙上などで、SDGsという言葉をよく見かける。本誌でも昨年1月号の論説<sup>1)</sup>で、有本氏が紹介をしている。SDGsは、“Sustainable Development Goals”の略で「持続可能な開発目標」と訳され、世界各国が2030年までに取り組む国際目標で、17の目標と169のゴールから構成されている。SDGsは2016年1月1日に発効しているが、普遍的な内容であり抽象的な目標であるからだろうか、十分に浸透しているとは言えないのではないか。ここでは、SDGsに向けた企業活動の実例を紹介することにより、会員の理解を深める一助としたい。

## 企業活動とSDGs

SDGsは企業の社会的責任(CSR)に似た概念であるが、貧困や飢餓の撲滅のために企業がどう動くかが重要である。単に収益を上げるだけでなく、社会貢献も同時に行っていくことが企業活動に求められていることを、日本の企業経営者は強く認識しており、SDGsの達成に向けた取り組みを進めているものと思われる。実際経団連では、会員企業向けの行動指針である「企業行動憲章」にSDGsの理念を取り入れるよう、2017年11月に企業行動憲章を改定した<sup>2)</sup>。また、日本化学工業協会では、日本の産業の歴史を振り返りながら、化学産業が如何にSDGsに貢献できるかを検討し、日本の強みである革新的な技術と製品(イノベーション)と問題解決力(ソリューション)を生かして、更なる成長に向けた事業活動と持続可能な開発への貢献の両立を目指した3つのビジョンを2017年5月に策定した<sup>3)</sup>。

## 企業活動とSDGs —住友化学を例にして—

SDGsへの貢献を国内の化学企業で実践している一番の例は、住友化学の「オリセト<sup>®</sup> ネット」事業<sup>4)</sup>で

はないかと筆者は考えている。「オリセト<sup>®</sup> ネット」はマラリア予防のために開発された蚊帳である。マラリアは特定の蚊が媒介する熱帯地方で発生する感染症で、特にサハラ以南のアフリカで多く発生し、犠牲者の多くは5歳以下の子供たちだ。

技術的には、ポリエチレンにピレスロイドという防虫剤が練りこまれた材料を使って作られ、しかも防虫剤が徐々に表面に染み出させる技術が組み込まれた防虫剤処理蚊帳である。もともとは虫よけの網戸として使われていた技術だが、マラリア予防のために研究開発を重ね、完成させた技術である。「オリセト<sup>®</sup> ネット」は現在80以上の国々に提供されているようだ。この技術は、SDGsの目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」の達成に貢献する。住友化学の貢献はこれだけでは終わらない。それは「オリセト<sup>®</sup> ネット」の製造技術を現地企業に無償供与し、現地生産を行うこととしたのだ。現地生産を行うことは、その地域に雇用が生まれ、労働者は安定した収入が得られるようになる。このことはSDGsの目標1「あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」の達成に貢献できる。

## 企業活動とSDGs —三菱ケミカルホールディングスを例にして—

手前味噌で恐縮だが、弊三菱ケミカルホールディングス(以下、MCHC)社が取り組んでいるSDGs達成への貢献について紹介したい。

MCHCでは、経営の重要課題を特定し、企業活動に及ぼす影響度などを勘案しながら優先順位付けを行い、マテリアリティ・アセスメントなるマトリックスを作成し、企業活動の羅針盤として活用している。重要課題として、資源・エネルギーの効率的利用、気候変動への対応、健康維持への貢献、ダイバーシティの推進などを挙げている。一方、MCHCがビジョンとして掲げるKAITEKIと持続可能な社会の実現を目指すという点は、SDGsの達成と互いに関連する部分が多

く、マテリアリティとSDGsの関係性を整理し、双方の解決に対して最大限貢献できるよう取り組んでいる。「資源・エネルギーの効率的利用」、「気候変動への対応」及び「清浄な水資源の確保」は、地球環境に関連する重要課題に分類され、SDGs目標の6「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理の確保」、7「持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセス確保」、12「持続可能な消費と生産のパターンを確保」、13「気候変動とその影響への緊急対策を取る」といった複数の目標達成に貢献できると考えている。製品として「BioPBS」を例に挙げたい。植物由来ポリブチレンサクシネートで、優れた生分解性をもち、通常は埋め立てや焼却処分される廃棄物のコンポストで肥料化を可能にする。本製品は目標12と15「陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進」の達成に貢献できる。

### 社会的責任から貢献へ

化学産業は、化学の様々な技術を用いて社会の課題を解決する「ソリューションプロバイダー」としての役割を発揮することにより成長してきた。今後もこの役割に変わりはないだろう。しかしこれからは、新規事業のみならず既存事業においてもSDGsのどの目標の達成に貢献できるのかを、併せて発信していく必要があると考える。即ち、社会的責任を果たすだけでなく、「貢献」が問われることになる。既存事業では後付けになるが、2社の例で示したように、17のうちどの目標達成に貢献できるのか、紐づけ説明することが求められよう。

### SDGsと研究テーマ

翻って、研究テーマにおいてはどうか。アカ

デミアの研究テーマ立案においては、科学的な課題や社会的な課題、或いは個人的な興味に対して解を求めべく、仮説を置き、それを立証するための実験プロセスを考え、テーマ提案に繋がっていると思う。この時に、このテーマはSDGsの何番の目標達成に貢献する、という宣言をしたらどうだろうか。提案したい。「その研究は何の役に立つの?」という問いから、「その研究はSDGsのどの目標達成に貢献できるの?」という質問に変えてみよう。普遍的で、抽象的な表現がされているけれども、17の目標に対する貢献を論理的に説明するのは、意外と難しいのではないかと。それを説明するのは、研究者の使命の一つであろう。

筆者は、研究テーマにSDGsへの貢献が紐づけられることにより、産との共同研究に発展しやすくなるのではないかと、といった副次的な効果にも期待する。技術シーズとして、ある目標達成に貢献しようとしていることが企業側貢献と共通であるとの認識が共有できれば、産学連携の話が始まり、ひいては企業の研究投資の対象になり得るのではないかと。

最後になるが、日本化学会第98春季年会の「論説フォーラム 徹底討論!」において、SDGsの話題が取り上げられる<sup>5)</sup>。興味のある方は是非参集あれ。

- 1) 有本建男, 化学と工業 **2017**, 70, 7.
- 2) <http://www.keidanren.or.jp/policy/cgcb/charter2017.html>
- 3) <https://www.nikkakyo.org/info/5371>
- 4) <https://www.sumitomo-chem.co.jp/csr/olysetnet/>
- 5) 3月21日(水)10時より。詳細はプログラムを参照。

© 2018 The Chemical Society of Japan

ここに載せた論説は、日本化学会の論説委員会の委員の執筆によるもので、文責は基本的には執筆者にあります。日本化学会では、この内容が当会にとって重要な意見として掲載するものです。ご意見、ご感想を下記へお寄せ下さい。  
論説委員会 E-mail: [ronsetsu@chemistry.or.jp](mailto:ronsetsu@chemistry.or.jp)